

高校1・2年生向け企画 大学での学びをイメージして 高校時代を過ごそう!

—世界を解明するためのいくつかの方法—

8月18日(日)13:00~15:00

**昭和女子大学オープンキャンパスで
実施します。予約不要・入退場自由**

私たちを取り巻く世界をさまざまなアプローチで解明するのが学問です。『日本国語大辞典』をひもとくと、学問とは「体系的に組織化された知識や方法」だと述べられています。つまり、それぞれの学問には身につけるべき「知識」と「方法」があるのです。大学は、研究者が解明した「知識」をただ受動的に吸収するだけの場ではありません。「知識」を活用しつつ、あなた自身が能動的に世界と関わっていくための技術と感覚を4年かけて身につけましょう。そのためには学問ごとに用意された、世界と関わる「方法」を学ばねばなりません。

「どんな知識を身につけたいか？」

だけで大学を選ぼうとしていませんか？

「どんな方法を身につけたいか？」

を大学選びの軸に加えましょう!

そうすると進路の見通しがグッとよくなるかもしれません。

昭和女子大学のオープンキャンパスで一緒に考えていきましょう!

<講師紹介>

松田 忍 歴史文化学科准教授 歴史学(日本近現代史)

小川 豊武 現代教養学科専任講師 社会学、メディア研究

藤島 喜嗣 心理学科教授 社会心理学(自己・社会的認知)

問合せ：昭和女子大学アドミッションセンター
tel:03-3411-5154

プログラム

- 13:00-13:05 趣旨説明
- 13:05-13:30 「史料」から世界を解明する（松田・歴史学）
- 13:30-13:55 「メディア」から世界を解明する（小川・社会学）
- 13:55-14:20 「実験」から世界を解明する（藤島・心理学）
- 14:20-14:40 3名の研究者によるパネルディスカッション
「戦後日本社会を分析するときのそれぞれの方法」

講師紹介

<p>【松田 忍】</p> <p>昭和女子大学人間文化学部歴史文化学科准教授。専門は歴史学（日本近現代史）。東京大学人文社会系研究科博士課程修了。歴史学の手法を用いて、日記や手紙、公的文書、雑誌・新聞などの歴史史料を解読し、第二次世界大戦をはさんだ1920年代から1950年代にかけての社会の変化を分析している。また昭和女子大学の学生たちと共に「戦後史料を後世に伝えるプロジェクト」を立ち上げ、戦後日本における被爆者運動の歴史的意義の解明を目指している。</p>	
<p>【小川 豊武】</p> <p>昭和女子大学人間社会学部現代教養学科専任講師。専門は社会学、メディア研究。言語が世界を構築するという立場の「言説分析」や、言語を用いることは様々な行為をすることであるという立場の「エスノメソドロジー」と呼ばれる手法を用いて、主に日本の若者を社会問題化するメディア言説について研究している。また、計量社会学の手法を用いて、現代の若者文化とコミュニケーションについても研究している。</p>	
<p>【藤島 喜嗣】</p> <p>昭和女子大学人間社会学部心理学科教授。専門は社会心理学（自己・社会的認知）。一橋大学大学院社会学研究科博士課程単位取得退学。心理学実験を実施し、そのデータを解析することで、社会的相互作用場面における他者推測過程を同定し、その推測の結果生じる対人関係上の問題について研究している。また、社会心理学研究の再現可能性検証に取り組んでおり、昭和女子大学の心理学科生と協力して大規模な直接的追試プロジェクトを進めている。</p>	